

CONTENTS

- 02 • プレミアムシリーズ誕生
- 06 • ナイス(株)インタビュー
- 10 • 新商品紹介
- 14 • ニチハTopics
- 18 • Topics & More

美しさが持続する、 外壁新時代

塗膜の変色・褪色30年保証[※]を実現したプレミアムシリーズ

※沖縄県を除く。保証書発行には諸条件がございます。

美しさが持続する、外壁新時代

お客様の外壁デザインに対する多種多様なニーズに応え、様々な家の表情をつくってきた窓業系サイディング。デザイン性に加え、ライフサイクルコストを考慮し、お客様の人生に寄り添う役割が必要であるとの観点に立ち、開発を進めてきました。そしてついに、窓業系サイディング業界で初めて^{※1}、塗膜の変色・褪色30年保証^{※2}を実現。住み続ける人のことを考え誕生した、プレミアムシリーズをご紹介します。

^{※1} 2017年11月時点。 ^{※2} 沖縄県の物件を除く。保証書発行には諸条件がございます。



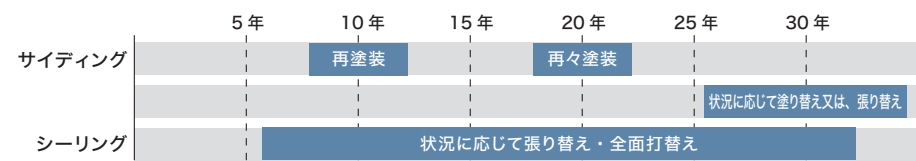
※写真はイメージです。

一般的な外壁は10年サイクルでメンテナンスが必要

家を建てる時に、意外に忘れがちなのが、建てた後のメンテナンス。外壁材は、太陽光（紫外線）、風雨、雪、気温の変化など、日々、過酷な環境にさらされています。耐候性のある塗装や防水シーリングも永久的なものではありませんので、その性能を保つためにはメンテナンスが必要です。一般的な外壁材は、紫外線や雨風によって色あせが発生。10年〜15年ごとに再塗装やシーリングの打替えを行います。その際には、シーリングの打替えや塗装の塗り替え費用に加え、足場の組み立て費用なども発生。例えば、十数年後のメンテナンスを想定して、積み立てをしているという方は多くはありません。

大きな負担になるメンテナンス費用を大幅に軽減するために、ニチハでは研究を重ねました。

一般的な塗装品[※]のメンテナンススケジュール



※ 10年サイクルを目安にメンテナンスを推奨している製品

さらに進化した超高耐候塗料

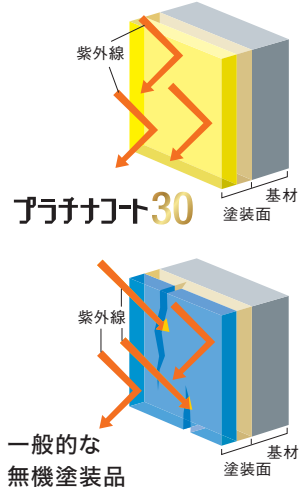
プレミアムシリーズでは、色あせに強い超高耐候塗料「プラチナコート30」を採用しています。

無機塗料は耐候性が高く色あせに強い反面、その硬さから、大きな負荷が掛かったりした場合に、ひび割れが起りやすいという課題がありました。

そこで、無機塗料と有機塗料をバランスよく配合、塗膜のひび割れにも強く、紫外線より強い分子結合力を持つ「プラチナコート30」を開発しました。

色あせ、塗膜のひび割れに強い進化した塗料

プラチナコート30

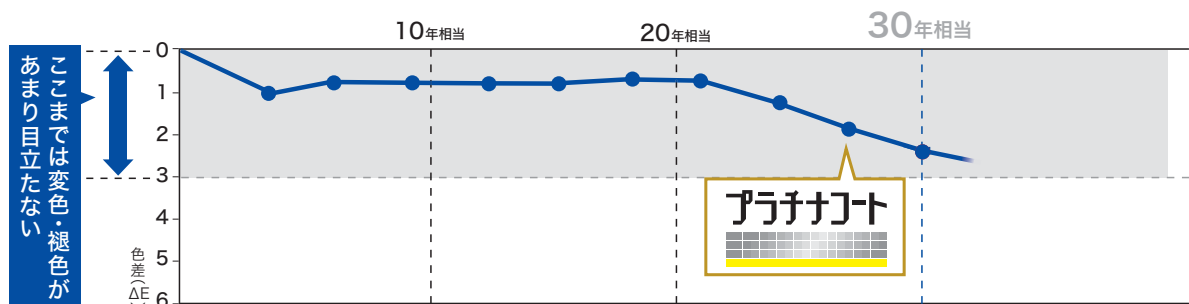


分子結合力が紫外線より強い^{※1}

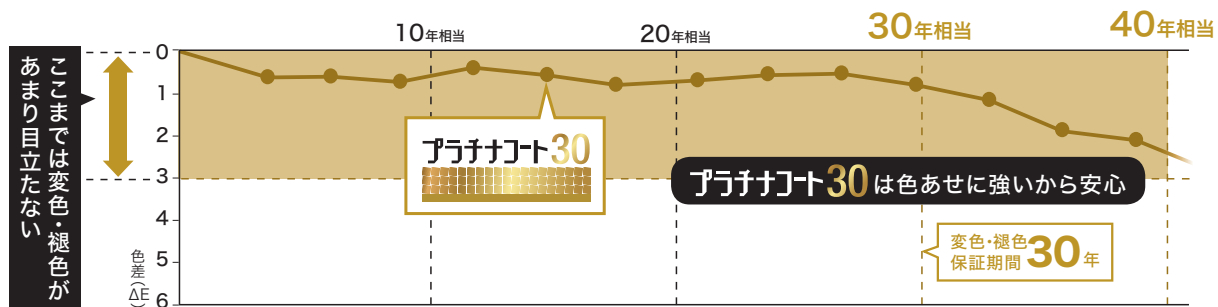


社内試験結果(当社独自基準)(促進耐候性試験(SWOM試験))

強い陽射しや熱、雨などの過酷な自然環境を再現する試験です。



※上記は「プラチナコート」の一例をグラフにしたものです。商品の濃淡によって色差の値が変わります。
※住宅の地域、環境や使用条件によって状況が異なりますので、メンテナンススケジュールについては住宅会社様または工務店様にご相談ください。



※上記は「プラチナコート30」の一例をグラフにしたものです。商品の濃淡によって色差の値が変わります。
※住宅の地域、環境や使用条件によって状況が異なりますので、メンテナンススケジュールについては住宅会社様または工務店様にご相談ください。

開発担当者の声

商品開発部長 朝倉 文宏 技術部 技術課長 樋口 真也

プレミアムシリーズの塗料は、プラチナコート30に進化したわけですが、「従来のプラチナコートから何をどのように進化させたのですか?」という質問は大変多いと聞いています。従来のプラチナコートも、左のグラフをご覧いただければわかる通り、耐候性の高さを実証しており、十分な実力を備えている塗料です。

しかし今回、30年保証という性能責任を伴いますから、耐候性のレベルをさらに上げるために、一般的に耐候性が高いと言われているフッ素系塗料も含め、様々な樹脂種の検討を行いました。諸々の選択肢から、スクリーニングを実施するにあたり、耐候性だけでなく、塗膜の柔軟性はじめ、諸物性について総合的な観点で判断しなければなりません。検討の結果、従来のプラチナコートの正常進化バージョンが、トータル的に最もバランスの良いデータを示したのです。

つまり、従来のプラチナコート仕様は、優秀な性能を有しているとの妥当性を確立することにつながり、長年継続してきたシリコンアクリルエマルジョン塗料への信頼度を高める結果が得られたともいえます。こうして、樹脂の骨格や組成といったベースは、ほぼ継承しつつ、総合的にさらなるレベルアップを図ったプラチナコート30の開発に成功しました。ついに、塗膜の変色・褪色に関して窓業系

サイディング業界では初めて^{※1}、30年保証に対応することができました。

左のグラフの見方ですが、色差(ΔE)の数値については、「3」ぐらいまでは、ぱっと見であればそんなに変色や色あせは感じません。「2」ぐらいであれば、多くの人は肉眼では気づきにくいです。「3」に近づいてきて、よく見るとちょっと違うかなというものを測色すると、多少数字に現れてくるという変化と捉えていただければと思います。

30年と長期間にわたり、曝露試験の結果を待つわけにはいきませんので、様々なストーリーを想定して促進試験にかけられるのですが、当社独自の試験以外にも、実績のあるJISの試験方法も、もちろん行っています。JIS基準でも当然のことながらいい結果が出ていますが、それら複数の試験の結果が、全部Oであれば、正確性は高くなりますね。優れた耐候性をもつ従来のプラチナコートの曝露試験も、相応な時間が経っていますが、良好な経過を見せています。その正常進化バージョンであるプラチナコート30ですので、これまでの実績や、従来のプラチナコートの曝露結果、各種試験データ等、総合的に見て、色あせの不安から大切な住まいを守ってくれると確信しています。

※1 2017年11月時点。

業界初
※2

進化した保証 塗膜の変色・褪色30年保証



塗膜の変色・褪色
30年保証
※1

※塗膜の変色・褪色30年保証はニチハ純正プラチナシール、もしくは「ドライジョイント工法」(Fu-ge PREMIUMの場合)のご採用、純正同質出庫、純正留め付け具(金具・ビス・釘・スターター)の同時使用が保証条件になります。

ニチハでは、塗料やシーリングを進化させたことで、長期保証対応を実現しました。

プレミアムシリーズ プラチナコート30とプラチナシールを同時に使用いただくことで、窯業系サイディング業界初となる「塗膜の変色・褪色30年保証」を実現。

一般的な塗装品・汎用シーリングの場合のメンテナンスコストと比較しても、負担の軽減の差は一目瞭然。30年の安心をお届けできることになりました。

環境との共生、ロングライフ住宅の実現を目指しているニチハでは、さらに未来に向けた取り組みを始めています。

Wプラチナ30で ワイドな保証

※1 沖縄県の物件を除く。保証書発行には諸条件がございます。 ※2 2017年11月時点。

長期間、強い! 切れない! 汚れない! 進化したシーリング

PLATINUM SEAL プラチナシール

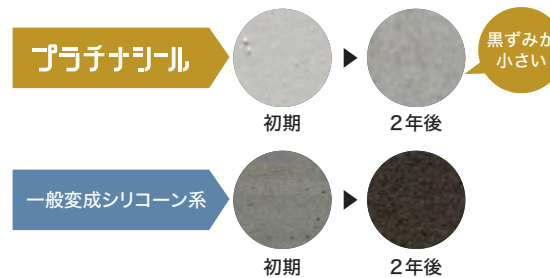
ニチハ独自の高耐久素材

黒ずみや切れ等により、約10年ごとに打ち替えが必要と言われてきたシーリング。汎用シーリングでは、白化、凝集破壊、ふくれなどの症状が発生する場合もあり、メンテナンスが欠かせない部位とも言えます。そうした課題を解消するために、ニチハでは、接着性、伸縮性を高め、なおかつ汚れにくい高耐久素材「プラチナシール」を開発。

引っ張り接着試験、伸縮繰り返しゴム疲労試験などを行い、高い耐久性を実証。耐久性の向上により、シーリングの打ち替え回数を削減。メンテナンスコストの削減につながります。

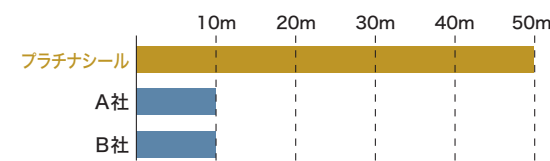
紫外線や風雨にさらされても汚れにくい!

低汚染性試験 ※自社試験(屋外平置き曝露試験/5mm厚)

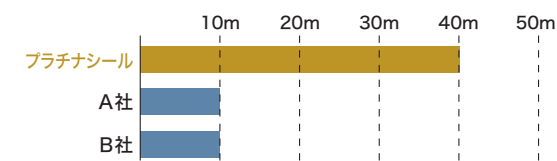


引っ張り接着性が、強い! モエンに対する引っ張り接着試験 ※自社試験

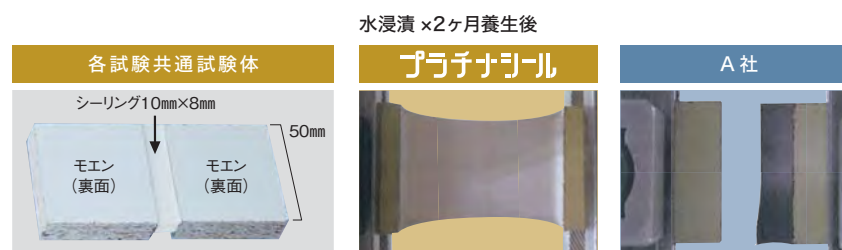
①水浸漬×2ヶ月養生後 (JIS試験は1週間養生試験)



②80°C×6ヶ月養生後 (JIS試験は2週間養生試験)



※JIS試験を10年相当とみなした場合、30年以上のいじめ養生となる。



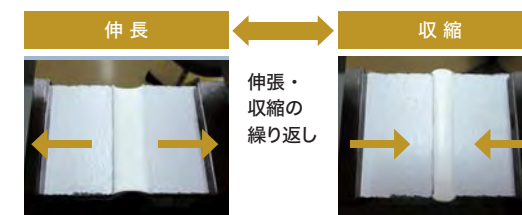
伸縮によるゴム疲労でも、切れない! 目地幅±5mmの伸縮繰り返しゴム疲労試験 ※自社試験

異常なし / 伸縮 15,000回※ 亀裂発生 / 伸縮 2,000回



※1回/日目地が伸縮した場合、30年以上の伸縮回数となる。

試験風景



一般戸建住宅での外壁材メンテナンスコスト (2階建て=外壁面積約170㎡における概算金額)

	初期費用	0~10年前後	10~20年前後
プラチナコート30 (長さ:6尺品) + プラチナシール	材料費+工事費 約210万円	点検・部品補修 約0万円	点検・部品補修 約0万円
プラチナコート30 (長さ:10尺品) + モエンイテラド16 PREMIUM + プラチナシール	材料費+工事費 約210万円	点検・部品補修 約0万円	点検・部品補修 約0万円
一般的な塗装品 + 汎用シーリング		点検・部品補修 約0万円	点検・部品補修 約0万円
一般的な塗装品 + 汎用シーリング		シーリングの打ち替え 工事をオススメ! 約65万円	再塗装 約60万円
一般的な塗装品 + 金具施工品・汎用シーリング	材料費+工事費 約150万円	再塗装 約60万円	再塗装 約60万円
		仮設足場 約35万円	仮設足場 約35万円
		合計 約125万円	合計 約125万円

※2017年11月時点。

※1 必要に応じて住宅会社様、工務店様へご相談ください。

※2 一般的な塗装品: 10年サイクルを目安にメンテナンスを推奨している製品。

●メンテナンスコスト・メンテナンススケジュールは、日常点検・定期点検の実施、弊社標準施工の遵守、プラチナシールを含む弊社純正部品を使用した場合のモデルプランの一例です。住宅の地域、環境や使用条件によって劣化の進行状況が異なりますので、メンテナンス計画を立てる目安としてご活用ください。

●メンテナンスコスト・メンテナンススケジュールは、時期および内容を保証するものではありません。

愛知県初のPPP方式による
豊田市営住宅整備事業

ナイス株式会社が描いた”森でつながる街“



ナイス株式会社
住宅事業本部 事業推進事業部
設計部 部長
山口 勉様



ナイス株式会社
素適住宅研究所 商品企画部
三枝 果林様



ニチハ株式会社
特販第二部
営業第一課長
佐伯 直昭

豊田市は、愛知県内初となるPPP方式（Public-Private Partnership）^{※1}による「豊田市営樹木住宅買取整備事業」の公募型プロポーザルを2017年に実施。

4社競合の中、ナイス（株）様の企画提案が採択され、同社は、設計から施工、建築後の管理までを一括で受注。このたび、2018年3月20日に竣工しました。全11棟48戸の木造の集合住宅は、バリアフリーに配慮した単身・2人世帯向けの平屋建て住戸3棟14戸と、3人世帯以上向けの1・2階で1住戸とするメゾネットタイプ8棟34戸で構成されています。

市営住宅のコンセプトは「森でつながる街」豊田市産材スマートウェルネス。経済効果の高い、快適で健康な暮らしとともに、自然と地域社会、人々がつながる街づくりを企画されました。このたび、その基本計画と設

を活用した家づくりというコンセプトが頭に浮かびました」（山口部長）。

そうお話しくださるのは、設計部の山口部長。豊田市の森の活用きっかけは、4年前の「とよたエコフルタウン」^{※2}でのプロジェクトに遡ります。ナイス（株）様は、豊田市が整備する「とよたエコフルタウン」の第二期公募において、中山間地域の暮らしをテーマとしたスマートハウス（次世代省エネ住宅）が採択され、「パワーホーム豊田プレミアム」を2014年5月より一般公開されています。まさに、今回の市営住宅につながる大事なベースになっているといえます。

「パワーホーム豊田プレミアム」も私達が担当しました。このモデルハウスは、豊田市の山間地や中山間地域で成立するスマートハウスをコンセプトに、豊田市の資源を生かした住宅として考案したものです。ここでも、豊田市産材をいかに活用するかという点にこだわりました。

日本は国土の約7割を森林が占める森林大国です。国産材の自給率は2002年を底に上昇し、現在は約35%にまで達しているものの、残念ながら地域の森林資源を十分に活用して地産地消につなげるという仕組みになっているとは言えません。木を伐ることは環境破壊につながると誤解している人がいるかもしれませんが、そうではありません。木は、50年ほどかけて成長する過程で最も多く二酸化炭素を吸収し、炭



自然の恵みを活用した「パワーホーム豊田プレミアム」

素を固定化してくれます。日本では現在、戦後に植林された森林が十分に育ち、伐採期を迎えており、こうした木を、伐つて、使つて、植えて、育てることで、再び二酸化炭素を吸収してくれる森林を育てることができるとのことです。そして、二酸化炭素を取り込んだ木材を使つて住まいを建てることで、更に長期間にわたり炭素を固定化できます。また、伐つて、使つて、植えて、育てるというサイクルをきちんと進め、資源循環型の社会を構築するためには、しっかりと地元に戻元できるような流通の仕組みをつくるのが大切です。こうした考えから、豊田市で豊田市産材を使うという点にこだわっています」（山口部長）。

豊田の森とつながる
住まいづくり

「当社は40年にわたり豊田市で住宅を供給させていただいており、豊田市内の状況も熟知し、職人さんをはじめ地元の方々としつかりと家づくりができる体制も整っています。この事業のプロポーザルに参加するに当たり、豊田市産材（矢作川流域材）

素を固定化してくれます。日本では現在、戦後に植林された森林が十分に育ち、伐採期を迎えており、こうした木を、伐つて、使つて、植えて、育てることで、再び二酸化炭素を吸収してくれる森林を育てることができるとのことです。そして、二酸化炭素を取り込んだ木材を使つて住まいを建てることで、更に長期間にわたり炭素を固定化できます。また、伐つて、使つて、植えて、育てるというサイクルをきちんと進め、資源循環型の社会を構築するためには、しっかりと地元に戻元できるような流通の仕組みをつくるのが大切です。こうした考えから、豊田市で豊田市産材を使うという点にこだわっています」（山口部長）。

今回の市営住宅では、豊田市産材、矢作川流域材の杉やヒノキを約137㎡使用。全体の木材使用量の約30%に相当します。

従来の市営住宅と一線を画す 平面でつながる街づくり

建物の老朽化に伴い、2011年に解体された樹木町の市営住宅の跡地での建て替え計画は、当初、RC造の3階建て48戸の建築が計画されていた時期もあったといえます。

「当初の計画では、箱型の鉄筋コンクリート造の建物と駐車場が整然と並ぶ、市営住宅と聞けば誰もが思い浮かべるようなも

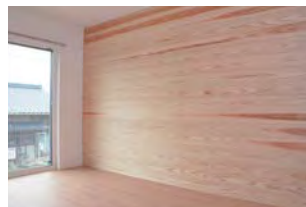


外壁材には、1Fの木目柄にFu-geのカルナウッド、グレーシアンアッシュMGとミディアムブラウンMGを、2Fに同じくFu-geのプリレート、クアラMGホワイトを使用。色数を抑え、玄関やバルコニーの手摺りの色味も外壁に合わせたことで、すっきりとした統一感のある外観に仕上げています。

ナイス（株）様とニチハの協働により豊田市に贈呈したカーボン・オフセット証明書。オフセット量は15万kg-CO₂。これにより11棟48世帯の入居者さまが家庭生活に伴い排出する1年間のCO₂排出量をオフセット（相殺）します。



高齢者向けにつくられた平屋



愛知県産スギで木質化された寝室



ファミリー向けにつくられた2階建てのメゾネットタイプ

のでした」(三枝さん)。

それに対し、ナイス(株)様が描いたのは、居住されるお子様から高齢者まで多世代が共生して交流が図れ、相互の見守りにつながるコミュニティの形成を重視した造成と配棟プラン。各棟の玄関は敷地内の中心通路となる「樹木広場」とそれにつながる小路に面しています。樹木広場の敷地内通路は、近隣の方も使える歩行者専用路として整備され、通学路としても使われます。

「市営住宅ではほとんど横のつながりがなくなっています。一般的に、入居者は単身の高齢者と子育て世代とに、ある程度は二極化されていますが、その世代間のコミュニケーションは希薄になっています。そうした世代がつながるようにするには、平面で住戸をつなげていくことからはじめようと考えました。ですから今回は、子育て世代に向けた2階建て住戸には1:2階で二つの住戸となるメゾネットタイプとし、敷地の中央を通る樹木広場から住戸の出入りをするような配棟プランとしました。

また、高齢者向け住戸のリビングルームは、樹木広場で遊ぶ子供たちを見守りながら過ごせるよう、広場側を向くように工夫しました。通学していく子供たちを見送ったり、休みの日に遊ぶ子供たちを見ながらリビングで過ごしたりといった、地域全体で子供たちを守り、育てていけるような、そんなコミュニティが形成できる街を

率の違いによる心理的・生理的な影響に関する様々な実証実験を慶応大学と共同で行い、エビデンスの集積を行っています。

維持管理も民間のノウハウを

設計、施工のみならず管理まで一括で受注するPPP方式の事業により、引き渡し後の共用部の清掃や植栽等の管理は、ナイス(株)様のグループ会社、ナイスコミュニティ(株)が行います。

「市営住宅の老朽化にもなう、維持管理の難しさを行政の方も認識されていて、募集要項には、管理体制の提案も入っていました。ですので、管理費まで設定して提出しました。基本的に、自主管理や自治会任せが通例のため、市営住宅の管理は煩雑になりがちな状況を生むため、建築後の維持管理は重要なポイントです。PPP方式の事業というのは、地元木材の調達、建物の企画・設計施工をはじめ、完成後の建物の管理・アフターメンテナンスまで、民間に全て委託して、民間活力を導入するという事業です。まさに、弊社グループの総合力を発揮できる事業となりました」(三枝さん)。

市営住宅の外壁材や屋根材も、維持管理やメンテナンスの観点で選定。外壁にニチハのFuugeを、屋根材に三州瓦を採用する方針はすぐに社内で決定されたといいます。

「地元の資材を使って、地元の方が建築し、

目指しました」(三枝さん)。

もともと同社の商品にあった耐震性能と断熱性能に優れたメゾネット型賃貸住宅「パワーホームプラス」をベースにアレンジ。敷地の有効活用はもちろん、交流の場をきちんと形づくるため、配棟計画に熟慮を重ねたといいます。

ZEH基準の外皮性能を備えた市営住宅

「この市営住宅では、『スマートウェルネス』もコンセプトに掲げています。『スマートウェルネス』とは、お住まいになる方が快適、健康に暮らすことができ、かつ経済性の面でも効率的に暮らせる住まいのことで、とりわけ断熱性能にこだわっています。豊田市で求められる新築の外皮性能はUA値(外皮平均熱還流率)で0.87ですが、この市営住宅は全戸でUA値0.6以下という、国が規定するZEH(ゼロエネルギー住宅)の基準を上回る高い住宅性能を持っています。当社で供給している木造戸建住宅『パワーホーム』は、全戸UA値0.6以下で建築しています。ですから、普段から取り扱っている商材を用いて、標準的な仕様で建設すれば、コストを抑えることもできますし、施工面でも効率よく建てることができます。ZEH基準をクリアした断熱性能を持った市営住宅は、もしかしたら日本でここだけかもしれません」(山口部長)。

現行の省エネルギー基準よりも高い断熱そして地元の方に住んでいただきたいの思いがあり、当社はそのコーディネートができればと考えました。そのため、屋根材には三州瓦を採用しました。そして、外壁材には愛知県に本社を構えられているニチハ様以外には考えられませんでした。『Fuuge』は、国産材の木材チップを原材料に用いた、環境に貢献する先進的な製品で、しかも、約30年近く色あせが目立たないなど、メンテナンス性の点でも優位性が高い商品です。メンテナンス性に優れた外壁材というのは、プロポーザルを獲得する上で重要で、『Fuuge』はそこを突破する力のつととなってくれました。完成した市営住宅を引き渡す前に、豊田市議会議員をはじめ市役所の方など行政の方々にも見学いただきましたが、外観内観、住宅性能とも、これまでのイメージをくぐがえす新たな市営住宅ということ、ご好評いただきました」(山口部長)。

木造のイメージを覆す

市営住宅の買取事業の契約は、今回が初めてというナイス(株)様。PPP方式で地域材を使用し、市営住宅を建て替えるという手法に、他行政からの問い合わせも寄せられているといいます。

「当社の強みは、川上と川下をつなぐ企業としてのネットワークを駆使し、全国の優良な製材メーカー様による製材品をアッ

性能とすることで、冷暖房効率に優れた住空間を実現するとともに、結露等によるカビやダニの発生が抑えられています。さらに、内装の一部を木質化することにより、快適な睡眠環境の提供をはじめ、入居者様が健康的な生活を送れるスマートウェルネス住宅となつていると三枝さんは話されます。

「全ての住戸の主寝室は、愛知県産スギの羽目板パネルで壁の一面が木質化されています。木は、断熱性や調湿性に優れているため、室内の温度変化を緩やかにし、住まいの快適性を高めてくれるという優れた性質があります。最近では、内装の木質化に関する科学的データも蓄積され、ストレスの減少や、睡眠効率の上昇、インフルエンザの罹患率の減少など、生理的・身体的な効果があることが明らかとなりつつあります。当社でも、そうした効果の実証実験を横浜市と慶應義塾大学で共同研究しており、入居された方が健康快適に暮らせればと思います。今回採用にいたしました」(三枝さん)。

ナイス(株)様は2015年10月に、横浜市鶴見区の本社前にスマートウェルネス体感パビリオンをオープン。このパビリオンは、「見て・触れて・感じて・知る」をコンセプトに、「温熱」「空気」「睡眠」「安全安心」「省エネ・エコ」の5つの要素を中心に、実験を通じて楽しく学べる施設です。また、同施設では、住宅の断熱性能の違いが健康に与える影響や、住宅に用いる木材の使用サンプルする「多産地連携システム」を構築していることです。全国の優良な木材品を、川崎市にある国内最大級の国産材ストックヤードなどに集積し、安定した品質の製品を安定価格で供給するプラットフォームを形成しています。住宅については、自社で『パワーホーム』を供給しているほか、工務店様に向けて、JAS機械等級区分製材品だけで構成した住宅構造躯体材のパッケージ商品『プレミアムパッケージ』を開発し、国産材を使用した住まいを分かりやすく紹介し、供給する仕組みを構築しています。

近年では、『木造ゼネコン®』として、中・大規模建築物の木造化にも取り組んでいます。その特長はワンストップソリューション機能で、グループ内で木造建築に必要な企画設計、構造設計、積算、木材調達、木材加工、施工の6つの機能を有し、一気通貫した対応が可能となっています。学校などの教育施設や高齢者施設、福祉施設、駅舎などの公共建築物の木造化については、地域の木材を使って建てたいという要望も多くなっています。そうしたニーズにしっかりと応えています。当社の大きな強みと自負しています。木造建築というものは、木材をどこで調達し、その特性を理解した上で、どのように用いるかということが非常に重要です。木のことを熟知している当社だからこそできる提案があると考えています」(山口部長)。

モエイクセラード18
18mmの深エンボスが創る造形美

Fuge **PREMIUM**

Fugeに、深エンボスにこだわった18mmラインナップが新登場。深彫りの陰影が織りなす

豊かな表情、ディテールにこだわった石の質感の重なりが、造形の美しさをよりいっそう際立たせます。



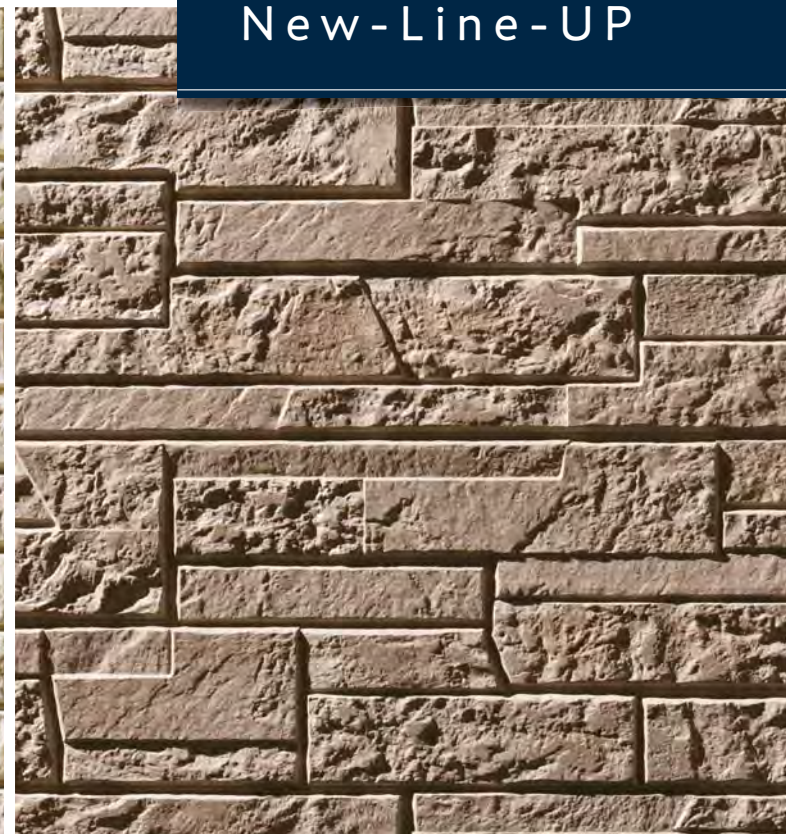
ELS531P オーレルMGホワイト30
※照明効果により、実物と見え方が異なる場合がございます。



ELS522P オーレルMGアイボリー30
※照明効果により、実物と見え方が異なる場合がございます。



ELS511P アバダンMGホワイト30
※照明効果により、実物と見え方が異なる場合がございます。



ELS502P ビレリスMGベージュ30
※照明効果により、実物と見え方が異なる場合がございます。



アコルド プレミアム

サイズ:18×455×1820mm
5,500円/枚(税抜) 全4色

傾斜ピースの陰影による濃淡とフラットピースで豊かな凹凸を表現。2種類のテクスチャーが採光条件によって様々な様相を演出し、縦目地がモダンな印象も感じさせます。



レイシェイド プレミアム

サイズ:18×455×1820mm
5,500円/枚(税抜) 全4色

自然石と人工物の組み合わせにより新規性を表現し、ピースの大きさと傾斜により壁面の陰影変化と高級感をイメージしました。



スプラン プレミアム

サイズ:18×455×1820mm
5,500円/枚(税抜) 全4色

積み上げた石の集合体は、重なる起伏により陰影が豊かになり深みを感じさせます。大面積でも使いやすいベース・アクセントに兼用できる定番柄です。



ビレリス プレミアム

サイズ:18×455×1820mm
5,500円/枚(税抜) 全4色

天然の小松石と御影石の凹凸感あるテクスチャーとランダムなピース配置で、躍動感と自然、2つの印象を壁面に与えます。



ELS532P オーレルMGスモークグレー30



ELS533P オーレルMGチャコール30



ELS534P オーレルMGネイビー30



ELS521P オーレルMGホワイト30



ELS523P オーレルMGキャメル30



ELS524P オーレルMGブラウン30



ELS512P アバダンMGグレー30



ELS513P アバダンMGエスプレッソ30



ELS514P アバダンMGダークブラウン30



ELS501P ビレリスMGホワイト30



ELS503P ビレリスMGブラウン30



ELS504P ビレリスMGチャコール30

窯業系サイディング業界で初めて クリーンウッド法の「第二種登録木材関連事業者」に登録

ニチハは、「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）」（2017年5月に施行）において、「第二種登録関連事業者」として登録されました。本登録は、窯業系サイディング事業者では初となります。

クリーンウッド法では、グリーン購入法の対象物品をベースに、新たな品目が追加されていますが、そのうちの二つが「サイディングボードのうち木材を使用したもの」という品目。ニチハでは、オフセットサイディングがこれに該当します。

グリーン購入法の対象品「木質系セメント板」に該当していたセンチューリー耐火野地板と併せて、国産材を原料としたオフセットサイディングが、クリーンウッド法の対象品となります。

クリーンウッド法は、国際的に問題となつている違法伐採への対策法で、伐採国で合法に伐採された木材等の流通を促進することで、違法伐採を抑制するための法律です。グリーン購入法における政府調達（公共工事）のみならず、民間工事まで取り組みが拡大しました。同法により、

木材を製造・加工・輸入・販売する事業者、建築・家具製造、製紙など、木材を利用する全ての民間事業者が、合法伐採木材の利用に努めることを求められます。

また同法では、合法伐採木材の利用に向けた措置を適切かつ確実に講じる木材関連事業者を登録する制度を設置、2種類に区分しています。

「第一種登録木材関連事業者」は国内外の木材生産者から直接買い入れる川上の輸入業者や原木市場・製材工場チップ工場などにあたり、それ以外の川下の事業者は「第二種登録木材関連事業者」となります。

ニチハは後者において、一般社団法人建材試験センターの承認を経て4月末に登録されましたので、オフセットサイディングとセンチューリー耐火野地板は「合法性確認済み製品」として取り扱い可能となりました。

創業以来培ってきた木材資源の活用技術を活かし、原料に100%国産木材チップを使用した「オフセットサイディングとセンチューリー耐火野地板」は、国産木材を補

強繊維に使用したセメント成型品です。

今後も、住宅・非住宅を問わず、オフセットサイディングとセンチューリー耐火野地板の販売を通じて、国産木材の有効利用に貢献するとともに、違法伐採を抑制し、健全で持続可能な森林経営を図り、森林保全・地球温暖化防止など地球環境の保全に資する「クリーンウッド法」に対応した安心の製品をご提供することで、国策に沿った取り組みを推進していきます。

<クリーンウッド法の主な対象品>
 木材：丸太、単板、突き板、製材、集成材、合板、木質ペレット、チップなど
 建材：フローリング、サイディングボードのうち木材を使用したもの、木質系セメント板など
 家具：いす、机、収納什器、棚、掲示板、ベッドフレームなど
 パルプ紙：木材パルプ、コピー用紙、印刷用紙、トイレットペーパー、ティッシュペーパーなど

<当社該当製品>
 オフセットサイディング
 ●COOL ●風光 ●モエンエクセラード ●モエンサイディングW
 センチュリー耐火野地板



ニチハの外壁材「オフセットサイディング」は、創業以来培ってきた木材資源の活用技術を活かし、製品本体に含まれる国産材チップを体積比率50%以上^{※1}使用しています。それらの生産・普及による地球温暖化防止に貢献する活動をおこなっており、クリーンウッド法に適した製品です。
※1 一部製品を除く

「オフセットサイディング」対象品

- COOL
- 風光
- モエンエクセラード
- モエンサイディングW



屋根下地にオススメ



センチューリー耐火野地板も
クリーンウッド法の対象商品です。



窯業系サイディングで唯一[※]の「国産材マーク」使用許諾品にも認定されています。

※2018年5月時点

ニチハの「オフセットサイディング」は、外壁耐火構造認定を取得しています。

※建築基準法で定められる防火性能上の耐火建築物（法2条9号の2）の外壁にも使用できます

モエンエクセラードが 建築ファサードの燃えひろがり試験 『AS5113』に合格

世界中で高層建築物が増加している一方、大規模な火災事故も相次いで発生しています。なかでも、火災に対する外壁の性能を見つめ直す大きな契機となったのが、2017年6月にロンドン西部の高層公営住宅「グレンフェル・タワー」で起きた大規模火災でした。地上24階建て、約120世帯が入居していたという建物は最上階まで炎に包まれ、多くの犠牲者を出してしまいました。

実は、グレンフェル・タワーの大規模火災が起る前から、高層建築の大規模火災は、世界各地で発生していました。グレンフェル・タワーの火災では、外装材が火災延焼を助長したという検証もあり、英国連邦では、外装材の燃え広がりに関する検査基準を厳しくしました。

この動きは世界に波及。オーストラリアでは、建築ファサードの燃えひろがり試験「AS5113」という評価制度を制定。外壁に関わる要求性能に、従来の「不燃

性能」と「耐火性能」に、新たにこの評価が加わりました。

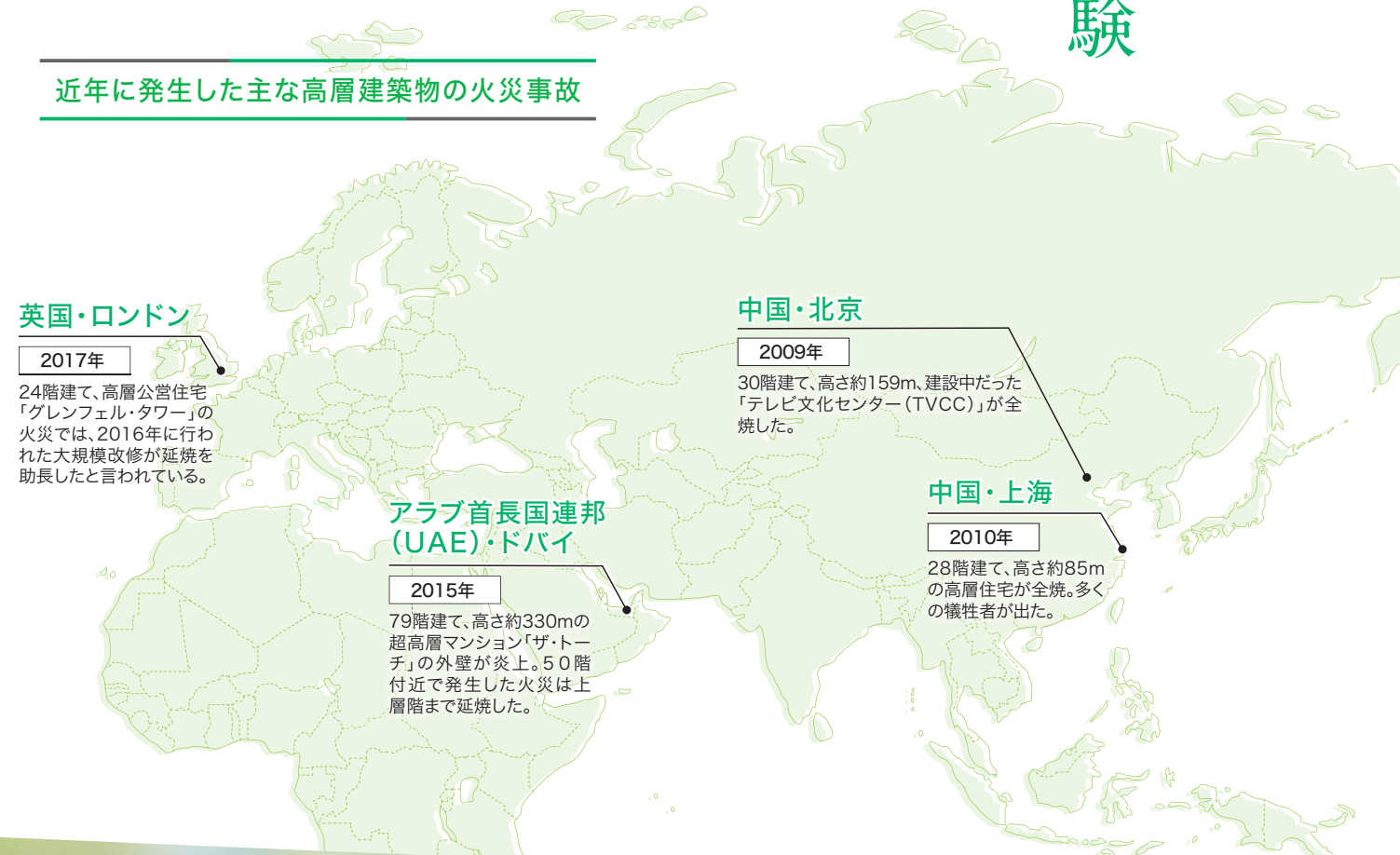
このたび、ニチハのモエンエクセラードは、オーストラリアでの建築ファサードの燃えひろがり試験「AS5113」に合格、外壁に関わる要求性能を充たす製品として認めていただきました。窯業系サイディングとして、本試験に合格したのは、世界で初めてとなります。

ニチハでは、今回評価を受けた性能を軸に、オーストラリアにおける市場開拓を進めていく予定です。

国内においても、従来の「耐火認定」「不燃材料認定」に続く評価認定として、建築ファサードの燃えひろがり試験の議論が始まっています。

ニチハでは、国内においても、多種多様なニーズにお応えしながらも、外壁に関わる要求性能を充たす製品開発を推進していきます。

近年に発生した主な高層建築物の火災事故



「2018愛知環境賞」で 銅賞を受賞

ニチハは、愛知県主催の「2018 愛知環境賞」において、「国産材を利用した外壁材による低炭素化活動とそのリサイクルシステムについて」が、銅賞を受賞しました。

「愛知環境賞」とは、資源の循環や環境負荷の低減において優れた取組を行っている企業 団体等に対して表彰されるものです。

ニチハは、国産材を原料とした窯業系外壁材を他社に先駆け製造販売。温室効果ガスの削減とともに、製造及び建築施工過程で発生する端材についても、独自のリサイクルシステムを構築したこと、環境負荷の低減と資源循環型社会の形成に大きく貢献するものとして高く評価されました。



左から愛知県 大村知事、弊社代表取締役社長 山中龍夫、環境パートナーシップ CLUB 水野会長（中部電力会長）（2018年2月15日表彰式にて）



ニチハの主力製品である窯業系サイディングは、主原料に国産材を利用しています。木材の利用は、木が生長過程で吸収したCO₂を固定化する効果によって環境負荷低減に貢献します。

さらに、施工現場で発生する端材を独自の物流ネットワークで効率的に回収。自社での再利用のみならず、全国の提携セメント工場でCO₂が発生しないセメント原料として使用するリサイクルシステムを構築しました。

「日本の森林を守るため 共に行動する企業」に認定

このたび、森林・林業木材産業関係6団体で設立された「国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」の「日本の森林を守るため共に行動する企業」にニチハが認定されました。

同協議会は、昨年10月に設立、国産材利用の促進により「伐つて、使つて、植えて、育てる」という循環利用のサイクルを再構築し、森林再生を目指しています。次世代に向けて健全な森林を引き継いでいくため、国産材の優先的な利活用に取り組み、具体的な行動を起こす企業に対して認定が与えられますが、その6社の中の1社に、ニチハが選ばれました。

「森林を守る」という言葉からは植林や間伐の手伝いなどが想像されがちですが、国産材を使ったり、製品を購入したりすることで日本の森林の再生を促すことに繋がります。

ニチハでは、2012年より、木材の生長過程で吸収したCO₂を閉じこめる（固定化する）効果に着目し、原料の木繊維をすべて国産木材チップとした外壁材「オフセットサイディング」の販売を開始。加えて、国産木材の中でも間伐材に限定した外壁材

「カーボンオフセットサイディング」の生産・普及を通じて、日本の森林資源を守り、地球温暖化防止に貢献する活動「ニチハエコ外壁プロジェクト」を推進してきました。

2016年には非住宅市場に向けた新内外壁材「COOL」で、店舗や施設、公共建築物等の非住宅物件の内外装に適した製品を展開。非住宅分野での、国産材の消費拡大を目指しています。

今後も、これらの取り組みを通じて、同協議会とともに国産材のさらなる活用促進に向けて、「伐つて、使つて、森林を守る」活動を推進していきます。





NICHIHA SIDING AWARD 2018

ナビューご愛読者さま限定締切日 **8月15日(水)**

本年も NICHIHA SIDING AWARD 2018 を開催いたします。
 審査委員長に建築家の難波和彦氏、
 インテリアデザイナーの飯島直樹氏をお迎えし、
 ニチハ製品をご採用いただいた作品を
 審査いただきます。



TOPICS and MORE

民泊をめぐる動きが活発化

「空き家・空き室活用、地域活性化などでビジネスチャンス」

民泊をめぐる環境が整ってきた。民泊新法の施行、改正旅館業法の施行といった宿泊施設をめぐる新制度がスタート、閣議決定された建築基準法の改正案では木造建築物の宿泊施設化がしやすくなる。民泊は外国人を中心とした観光客の受け皿として注目が集まるが、住宅産業界にとっても新たなビジネスチャンスとして注目される。

ほかの制度についても規制緩和が行われ、従前に比べて使いやすくなっている。特区民泊では、居室の床面積を原則25㎡以上とするなどの要件を満たせば、都道府県知事などが認定することで旅館業法の適用が除外される。つまり、マンションなどが住宅用途のまま民泊運用が可能となる。当初、6泊7日以上という制限があったが、2016年に2泊3日以上と緩和された。

全国的に民泊を解禁する「住宅宿泊事業法(民泊新法)」が6月に施行となった。これにより民泊は、旅館業法における簡易宿所、国家戦略特別区域法による特区民泊、そして民泊新法による民泊と、3つの方法で事業を行うことができるようになった。民泊新法によるものは、家主居住型と家主不在型の2種があり、それぞれ届け出と登録が必要であるが、フロント設置や居室の床面積などの制限はない。ただし、ほかの民泊と大きく異なるのは営業日数180日という制限が設けられていることだ。さらに自治体によって営業日数や可能な地域など独自の規制を設けることができる。事実、都市部の住宅地や観光地などでは規制をかける動きが顕著に出ている。一方、過疎化が進む地方都市などでは、観光振興や空き家対策などその活用に前向きだ。

さらに今年6月には改正旅館業法が施行、最低客室数の基準を撤廃し一室からでも営業ができるようになった。また、客室の最低床面積も緩和し7㎡以上とした。トイレの設置基準やフロントの基準なども緩和され、これまで難しかったワンルームタイプのマンションやアパートなどでも旅館業法の許可が得られる可能性が広がった。

また、同改正では小規模建築物の防火規制も緩和される。延べ床面積200㎡未満・3階建て以下の建物を対象に、3階を就寝用途で利用する場合、各居室に警報装置を設置するなどの措置を行うことで耐火構造としなくてもよいこととする。この緩和により、3階建ての戸建住宅を宿泊施設などに転用しやすくなる。

建基法改正で戸建ての民泊もしやすくなる

民泊をめぐる制度の環境変化は宿泊施設に関するものだけではない。先に建築基準法の改正案が閣議決定された。現行では建築物の用途変更を行う場合、100㎡以下で建築確認が不要となるが、改正案では200㎡以下へと緩和される。既存住宅などを宿泊施設などに用途変更がしやすくなる。

これまで宿泊施設と考えられてこなかった集合住宅や戸建住宅が宿泊施設として活用できる可能性が広がっている。住宅事業者にとっては新築やリノベーションのビジネスの幅が広がったともいえる。また、民泊をめぐる動きは、地域の活性化や空き室活用などのビジネスにもつながる。住宅産業界でも見逃せない動きと言えよう。

ハウジングトリビューン編集長 平澤和弘

簡易宿所、民泊新法、特区民泊の違い

	旅館業法による簡易宿所	民泊新法		特区民泊
		家主居住型	家主不在型	
行政への手続き者	事業者	家主	管理者	事業者
行政への申告	許可	届出	登録	許可
営業日数制限	なし	180日	180日	なし
宿泊日数制限	なし	なし	なし	2泊3日以上
フロント設置	原則なし(10人未満)	なし	なし	なし
居室の床面積	3.3㎡以上*	なし	なし	25㎡以上

* 1人当たり3.3㎡に収容定員数を乗じた数

難波和彦

建築家・東京大学名誉教授。1977年(株)一級建築士事務所 難波和彦・界工作舎を設立。代表作に「箱の家」シリーズがあり、標準化・多様化・サステナビリティをコンセプトに掲げた都市型住宅のプロトタイプとしてデザイン・開発を手がける。グッドインテリアデザイン賞、新建築吉岡賞、住宅建築賞、JIA環境建築賞、建築学会賞業績賞など多数受賞。



飯島直樹

インテリアデザイナー。1985年飯島直樹デザイン室を設立。2004年から2014年JCD理事長。2011年から2016年工学院大学建築学部教授。JCDデザイン賞、APIDA(香港)賞などを多数受賞。5Sニューヨーク、blupondソウル、PMOオフィスビルプロジェクト、工学院大学ラーニングコモンズ新宿・八王子などインテリアから環境全般のデザインまで幅広く活躍。



下記の応募要項で、建設会社様、設計事務所様、リフォーム会社様等の専門家向けとして実施いたします。

対象作品 弊社商品(金属製外装材含む)を外装あるいは内装に使用し、2017年8月以降に新築またはリフォームされた建築物。

審査基準 ニチハ標準施工で商品の柄や特性をうまく活かし、建て主様の意向に沿い、時流に合った外観デザインであること。また、周囲との調和や外構デザインにも配慮されている作品であるかについて、施工写真や設計要旨から判断のうえ審査します。

賞品 各受賞作品において、以下のとおり賞品を贈呈いたします。

グランプリ	住宅部門・非住宅部門各1点	合計2点	30万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に5万円(旅行クーポン券)
プラチナ賞	住宅部門・非住宅部門各1点	合計2点	10万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に3万円(旅行クーポン券)
ゴールド賞	住宅部門・非住宅部門各1点	合計2点	5万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に2万円(旅行クーポン券)
入賞		10点	3万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
Fu-ge賞		数点	3万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
リフォーム賞		数点	3万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
公共建築賞		数点	3万円(旅行クーポン券)	別途、建て主様に1万円(旅行クーポン券)
ニチハ賞		約30点	記念品を贈呈いたします。	

PREMIUM
SERIES

窯業系サイディング

業界初[※]

30年

変色・褪色 保証に対応

※ 2017年11月時点、沖縄県の物件を除く。
保証書発行には諸条件がございます。

PREMIUM SERIES

プレミアムシリーズ

住み続ける人のことを、
考えて、考えて、考えて、
誕生した外壁材です。

人も住まいも、長く生きていく時代。

住まいの外壁材にも、人生に、長く寄り添う役割があると思う。

色あせにも塗膜のひび割れにも強い進化した外壁材。

それが、ニチハのプレミアムシリーズ。



ニチハ株式会社

名古屋市中区錦二丁目18番19号
三井住友銀行名古屋ビル
TEL (052) 220-5111
編集/ナビユー編集室

ホームページアドレス

<https://www.nichiha.co.jp/>

編集後記

ワールドカップの決勝トーナメントが始まり、見逃せない試合観戦に寝不足気味な毎日が続いていますが(7月頭現在)、来年のラグビーワールドカップ日本開催、再来年と、スポーツの祭典を日本で観戦できるのは、本当に貴重なことだと改めて思います。今回、取材物件で訪れた豊田市宮樹木住宅は、そのラグビーワールドカップの会場となる豊田スタジアムを望むことのできる高台にあります。起伏つけた造成、広場と小道が形づく交流の場など、子どもが遊び、住まう人々が集う光景が目に見えようでした。「豊田市さんは先進的なものを取り入れようという意識が高い」とうかがい、いわゆる市営住宅の整備にとどまらない、官民一体でつくりあげた新たな街づくりなのだと感じました。さて、今年もNICHIIHA SIDING AWARDを開催中です。ナビユーご愛読者さま限定の締切りは8月15日(水)までです。皆さまからのご応募をお待ちしております。(T)